



全労生・前副議長

種岡 成一

労組生産性会議の活

動では、2003年7

月に関東地方労組生産

性会議の事務局長に就

かせていただいたてか

ら、昨年10月の全労生

副議長退任まで約10年

間、みなさまにお世話

になった。この10年間

政治ともに大きな変化のあった期間であった。いわゆる「失われた10年」から脱却し、次へのステップを踏み出すために各産業、企業等の労使で様々な課題へのチャレンジが続けられてきた。

就業形
態、雇用形
態の多様化
への対応、

「全労生結成50周年宣言」のもと、 労組生産性運動の一層の発展を

の再編、それらを背景とした人事・処遇・賃金制度など多くの課題に取り組みがなされた10年であった。

これからも、取り巻く状況の変化を予見しながら、労使間で様々な課題に取り組みな

る。そして、各企業・労働組合等で実際に展開していく上で最も大切なことは「労使関係」であると思う。労使がそれぞれの立場を尊重しながら、労使自治の

「公平と効率を重んじる真の生産性運動の推進」、「共生」可能な雇用社会の実現」、「社会的な視点を強化した運動の展開」、「未組織を含むすべての職場に労使協議の充実」の四つに留意した運動

への対応、

「団塊の世代」が60歳

を迎える中での高齢者

雇用、男女共同参画推

進への取り組みや、一

層求められるワークラ

イバランスの実現、

グローバル化とイノベ

ーションが進む中での

企業等の組織形態など

ればならないが、その

基本として、生産性運

動の三原則「雇用の維

持・拡大」「労使の協

力と協議」「成果の公

正配分」を大切にす

ることが必要であり、そ

れは、それぞれの労使

の社会的責任でもあ

る。

ユニケーションをはか

り、協議、交渉する基

盤をつくる必要がある

であり、それを経営基

盤のひとつとして位置

付けることが大切と考

える。

全労生は、09年の結

成50周年にあたって、

う。

この方針を大切に

し、「働くことの尊さ」

を重んじ、働きがい、

生きがいを持って、活

力ある持続可能な経済

社会を目指し、労組生

産性会議の活動がより

一層発展することを願

う。

を主体的に実践することとを宣言した。